



遠大勵志

始業式

マザーテレサの言葉

5日(金)の始業式の校長講話で、マザーテレサが残したといわれる言葉を紹介しながら、次のようなことを話しました。

「思考」は自分でも見えにくくわかりにくいから、「言葉」に気をつけることが大事。「言葉」を通して自分の「思考」に気づくことにもなるし、「言葉」は直接自分の潜在意識に影響を与えるものである。日頃の言動が、「最終的に自分の運命を左右するかもしれない」という思いをもって、「自分の発する言葉」に気をつけてほしい。ヘイトスピーチや SNS での匿名性をいいことにした他人への誹謗中傷などはやめるべきだ。言葉を大切に使いながら、相手のことを思いやり、相手の命や尊厳も大事にすることを心がけるべきである。それと同時に、自分の生き方や命を丁寧に、大事にすること。何気ない普段の言動が、ともすれば自分の未熟さや自己本位な考え方で、「周囲の人たちの心」を傷つけているかもしれない、という謙虚な思いを抱くことも大事だと思う。

始業式が終わり、清掃の時間になりました。校長室へ掃除に来た3年生の N・K くんから、マザーテレサの残した言葉をもう一度教えて欲しいと、お願いされました。

思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから
言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから
行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから
習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから
性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから
(マザーテレサ)

すると、今度はそこに一緒にいた T・Y くんが、校長室に掲げている書(右上の写真)を見て、これがずっと前から気になっていたので意味を教えてくださいと、私に尋ねてきました。

この書は、昭和57年に当時の第19代阿部節郎校長先生が、関波智子先生に揮毫を依頼して作成してもらい、以来ずっと校長室に掲げられているものです。



佐藤一齋は、1772年に岐阜県岩村藩で家老の子どもとして生まれました。幼少の頃から経書に親しみ、22歳で儒学によって身を立てることを決意、34歳で林家の塾長に抜擢されました。70歳の時、昌平黉の儒官(現在でいえば、東京大学総長の立場)になり、日米和親条約の外交文書の作成にも関わった人物です。

この書は、その佐藤一齋が著した「言志四録」の中にある「少(しょう)にして学(まな)べば、則(すなは)ち壮(そう)にして為(な)すこと有り。壮(そう)にして学(まな)べば、則(すなは)ち老(らう)いて衰(す)えず。老(らう)いて学(まな)べば、則(すなは)ち死(し)して朽(く)ちず。」というものです。

(訳) 少年の時に学んでおけば、壮年になってから役に立ち、何かを為すことができる。壮年の時に学んでおけば、老年になっても気力が衰えることはない。老年になって学んでおけば、ますます見識も高くなり。社会に役立つこととなり、死んでからもその名は残る。

校長室掃除に来た、3年生二人の関心の高さに感銘を受けました。素晴らしい一年になる予感がした掃除のひとつでした。